



令和6年度

国語

(9 : 10 ~ 10 : 00)

注 意

- 1 検査開始のチャイムがなるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙の1ページから10ページに、問題が一から三まであります。
これとは別に解答用紙が1枚あります。
- 3 問題用紙と解答用紙に受検番号を書きなさい。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

受検番号	第	番
------	---	---

一 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

「星野さんは、どうして文章を書くのですか？」

小さいノートにメモをしながら、プリントした質問案を両手に握りしめながら、ノートパソコンを①カタワ^{うたわ}らに置きながら、取材でインタビューをしてくれる方々は、キラキラと表情を輝かせながらそう訊きいてくれる。

本当に良い言葉を期待してくれている時もあるし、興味はないが仕事だから失礼のないように、しつかり興味があるように演技をしてくれている時もある。どちらも本当にありがたい。

「俳優としても音楽家としてもお忙しいのに、文筆活動をされる理由は何ですか？」

エッセイに夢中になつたのは16歳の時である。

松尾スズキさんの『大人失格』、そして宮沢章夫さんの『牛への道』。

名著と謳^{うた}われる2つのエッセイ集を読んだことがきっかけだった。学校の中で小さな演劇活動をする最中、上演できそうな戯曲を探すために立ち寄つた本屋の演劇コーナーでふと手に取つた。文字を読んで腹をa^aほど笑つたのは初めての経験だった。

子供の頃から読書が苦手であった。感覺で読んでしまえるマンガは

大好きでいつまでも読んでいたが、隨筆や小説などは読んでいる最中に必ず違うことを考えてしまい、ぼんやりしながらページだけ

が進み、気がついた時には地方鉄道で寝過ごしまつたく知らない駅に着いてしまった時のように、□ b^bでひとり迷子になつた。

しかし、その2つのエッセイは最後のページまで自分の手を握つたまま、本の中の終着駅まで連れて行つてくれた。

一人に憧れて、文章を書けるようになりたいと思うようになりまた。そう答えることが一番多い。

「素敵ですね！」

文筆のことを訊いてくれる人は、本の話をするときも喜んでくれる方が多い。だからもちろん嘘^{うそ}ではない、その答えを話すようになっている。でも、1もう一つ理由がある。

実はこちらのほうが本格的に文章を書く理由としては大きいものだつた。取材としてはつまらないことかもしれないが、あまり大きな声では言えなかつた。

メールを書くのがものすごく下手だったのである。

壊滅的だつた。センスのかけらもない。今軽く思い出しても胃のあたりが凹んだような苦しい感覺に②オチ^{オチ}する。自分のメールを受け取つてしまつた人は、呪いのスパムメールを受け取つた人よりも③メイワク^{ワク}だつただろうなど回顧する。

中略

本来言いたいことと、實際書かれている言葉がなんだか違うことはわかるのに、他に思いつかない故に送信ボタンを押すしかない切なさ。

しかし時が経つにつれ、様々な仕事が増え、メールの必要性はどんどん増していった。どれだけメールを送つても、考えても、書き直しだつたら仕事にしてみよう。

でも、文章は一向にうまくならなかつた。

中略

今は文章を書くことが、とても楽しい。

A そして自分でも文筆家としてエッセイを書くこと、目で見た景色と、心の中の景色を描写することが、一種のヒーリングのようになつていてあると思つた。

下手な文章なら編集さんや世間から否定的な反応があるはずだ。強制的に切磋琢磨^{せっさたくま}できる。もし、自分の文章がうまくなり、いつか誰かに褒められたなら、それは④ジッセンがセンスというものを凌駕^{りょうが}した瞬間であると思つた。

個人的に知り合いの編集者さん数人に会いに行き、なんでもいいから書かせてくださいとお願ひすると、ありがたいことに雑誌の欄外一言コラムをやらせてもらえることになつた。

しかし、書いていても、ちつとも楽しくない。自分のセンスのなさと向き合いでけなければならないからだ。納得がいかなくとも締め切りには提出しなければならない。

そうこうしていくうちに任される文字数はなぜかどんどん増えていき、いつの間にか自分の本が出ることになり、何年も書き続けた結果、今では自分の想いをそのまま言葉にできるようになつた。

メールを書くことも苦ではなくなつた。むしろ物事をじっくり時間

をかけて伝えることができるので、喋^{しゃべ}ることよりも自由を感じるようになった。

B どんなにたわいないことでも、それをうまく文章にできた時、心中が綺麗^{きれい}に整頓されたように、掃除したての湯船に入り、綺麗に体を洗つたようにすっきりとした気持ちになつた。

「星野さんは、どうして文章を書くのですか？」

C 実際の答えとしては、こういったことでとても気持ちが良いからです。と言いたいところなのだが、説明が長くなつてしまつので、松尾さんと宮沢さんに憧れて、とこれからも答えてしまうかもしれない。

D 今後の課題は、もっと簡潔かつ自由に喋り、相手に伝わる言葉で心のままに話せるようになることである。

(星野源 「いのちの車窓から」による。)

(注1) スパムメール＝受信者の意向を無視して一方的に送り付けられるメールのこと。迷惑メールとも呼ばれる。

(注2) 凌駕＝他のものを越えてそれ以上になること。

(注3) ヒーリング＝いやすこと。いやし。治療。治癒。

1 ①～④のカタカナに当たる漢字を書きなさい。

文章の内容を踏まえて、文集に書く内容を検討している様子です。
これを読んで、あとの(1)～(3)に答えなさい。

2

a □に当てはまる最も適切な語を、次のア～エの中から選び、
その記号を書きなさい。

ア 決める イ たてる ウ 抱える エ 割る

3

b □に当てはまる適切な表現を、文章中から三字で抜き出して
書きなさい。

4

1 もう一つ理由がある とあるが、どのような理由ですか。二十
五字以内で簡潔に説明しなさい。

5

次の【段落】は、文章中の形式段落 A～D いずれのあとに挿入す
ればよいか。最も適切な段落を、A～Dの中から選び、その記号を
書きなさい。

【段落】

私は何を見たのか。どんな風景を見て心が動いたのか。そ
の動き方はどんな様子だったのか。そこから何を考えたのか。

6

小田さんの学級では、中学校三年間を振り返る文集を作成するこ
とになりました。次の【生徒の会話】は、国語の時間に読んだこの

【生徒の会話】

小田… 「三年間を振り返る」といつても、そもそも何から

書いたら良いのか分からないな。私は文章を書くのが
苦手だから「書くのがものすごく下手だった」という
星野さんに親近感を持つたよ。どうして星野さんは書
けるようになつたんだろう。

竹本… 星野さんは「 I 」からだと言つてゐるよ。

市川… いい考え方だよね。④お金をもらうんだから責任感も
持てるね。

福井… 何から書いたら良いのか分からぬのなら、例えば
身近な話題から始めてみたらどうかな。⑤好きなこと
や興味があることから書くと、自然と次に書く内容も
浮かんでくるよ。

小田… それは先生にも言われたな。どうしてなんだろう。

福井… 自分の好きなことについて、感じたことや考えたこ
とを誰かに伝えてみたいという気持ちが湧いてくるか
らじやないかな。

小田… でも、星野さんは好きなことを書いていたはずなの
に楽しくなかつたみたいだよ。

竹本… 星野さんは、(c) 縮め切りがあるから、書いた文章に納得がいかなくとも提出しなければならなかつたみたいだ

ね。それなのにどうして楽しくなつたんだろう。

市川… 星野さんには、文章を読んでくれる人や、「II」

人がいたからじやないかな。

小田… そうか、④友達と書いた文章を読み合つたり、質問し合つたりしながら文章を何度も検討することが大切なんだね。

(1) 空欄Iに当てはまる適切な表現を、文章の内容を踏まえ、「センス」という語を用いて、三十字以内で書きなさい。

(2) 空欄IIに当てはまる適切な表現を、文章の内容に即して八字以内で書きなさい。

(3) ③～⑦の中から文章の内容に合うものとして最も適切なもの一つ選び、その記号を書きなさい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

安野光雅のエッセー「ものの形」(『わが谷は縁なりき』)は、「しゃぼんだまはまるい。だれがつくてもまるいたまだ。」で始まります。ちよつととばして、次の文章を読みましょう。

芋の葉の露もまるいたまだ。涙も、まるいたまだ。雨つぶもまるいたまだ。ところが、その雨が凍つて雪になると、もうまるくはない。ふわふわの①綿のようになつてしまふ。顕微鏡ではじめて、その雪を見た人はだれだろう。その人はどんなにおどりいただろうか。顕微鏡で見えたのは、うつくしい花だった。それとも、すばらしい宝石だったか。しかし、みるみるうちに、その宝石はとけて水になつた。やはり、雪だったのだろうか。見まちがいではなかつたか。それとも、これは魔法かもしね。でなかつたら、だれが雪をそんなうつくしい花にしたのだろう。

雪の結晶をはじめて見た人は、あまりの意外さに、魔法にかけられたと思うかもしれません。ぴんと張りつめた放射状の六角形、その凜とした美しさ、なのに文字どおりに表すことばがない。そこで、ことばの経路をワープして、「うつくしい花」「すばらしい宝石」と表します。本当は花や宝石でないのに、見た目には花や宝石であるのです。ここでは、「でな

い」と「である」が同居しています。

隠喩は、比喩のなかの比喩、比喩の女王です。すばり喻えます。一瞬のうちに別なものに見立てるのです。雪は、あつという間に花や宝石と結びつく——この□ A の結びつきを保証するのが、1似ているという感覚です。

似ているというのは、不思議な感覚です。どのようなときにそう感じるのでしようか。親子なら、姿形が似るでしょう。では、友だちどうしはどうでしようか。「類は友を呼ぶ」というように、趣味や考え方が似ることがあります。形ではなく、むしろ特徴が似ているのです。雪の結晶の場合は、花や宝石と形が似ているだけでなく、「うつくしい」「すばらしい」などという特徴も似ています。

似るには、二つの項が必要です。喻えられる項と喻える項です。雪の結晶は喻えられる項であり、花や宝石は喻える項です。この二つの項は、けつして対等ではありません。典型的には、喻える項は、ありありとよくわかる具象的なものであり、喻えられる項はいわく言いがたい抽象的なものです。雪の結晶は、喻えられる項でありながら、まだ具象性を保つているといえるでしょう。

では、喻えられる項が抽象的なものを考えましょう。たとえば、人生とは何か、と悩むことがあります。これに対するあらかじめ定まつた答えはありません。人生ということばは、抽象的であり、「はいこれです」と目の前に示せるものではないからです。そこで、隠喩の経路をとりま

す。たとえば、「人生は旅」と考えます。すると、そこに人生の道、そこを歩む旅人の姿が浮かびます。

高村光太郎の詩『道程』にも道が現れます。

僕の前に道はない

僕の後ろに道は出来る

す。当初の輝きはしだいに失せていて、ふつうのことばの一部となります。「道」はその一例でしょう。しかし、その輝きを完全に失っているわけではありません。むしろ、底光りしているというべきでしょう。しゃぼんだまの「たま」もそれに近いかもしません。露や涙や雨粒を「まるいたま」と見なすとき、「たま」はもう少し光を強めるようです。

(瀬戸賢一「日本語のレトリック」による。)

この「道」は、詩人としての人生の道のことをいつているのでしょうか。

けつしてキザな表現ではありません。というのも、私たち一人ひとりが

旅人だからです。将来の進路を迷うことにはありませんか。そのとき「進

路」も「迷う」も、「人生は旅」の隠喻に従っています。ですから、slow

but steady (ゆっくり着実) に歩んでいても、ふと気づくと曲がり角に

立っていたり、不覚にも倒れたり、ふたたび勇気を②奮って立ち上がり当たりしなければならないのです。道そのものも、山あり谷ありでしよう。

「人生」の隠喻は、もちろん、旅に限りません。でたとこ勝負の賭とも見なせるでしょう。③芝居ないし回り舞台とも見なせるでしょう。これら

装置。また、それを備えた舞台。

1 ①～④の漢字の読みを書きなさい。
2 □ A □に当てはまる最も適切な四字熟語を、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 暗中模索 イ 千差万別 ウ 電光石火 エ 理路整然

らは、人生を旅と見るのとは違った見方です。もうおわかりでしょう。人生観とは、隠喻観です。文字どおりのことばをもたない人生について考えるには、なんらかの隠喻にたよるほかはないからです。2 隠喻は、このとき、ことばの飾りではなく、思考そのものとなります。

隠喻は、長い年月を経て、ことばの底にゆっくりと④沈殿していきま

す。1似ているという感覺とあるが、筆者はどのようなときに感じるものだと述べていますか。解答欄に合う形で二十五字以内で書きなさい。ただし、「似る」(活用した場合を含む)は解答に使えないものとす

4 2 隠喻は、このとき、ことばの飾りではなく、思考そのものとなり

ます」とあるが、どういうことか。「このとき」が示す内容を明らかにしながら、六十五字以内で書きなさい。

5 文章を読んで隠喻に興味を持った福山さんは、学校図書館で、文章中に取り上げられていた「人生」について、別の隠喻が用いられている小説を見つけました。次の【資料】は、その小説の一部を抜粋したものです。また、【ノートの一部】は、福山さんが文章と【資料】を読んで考えたことを表にしたものです。これらを読んで、【ノートの一部】の空欄Ⅰ・Ⅱに当てはまる最も適切な表現を、文章中からそれぞれ六字以内で抜き出して書きなさい。また、空欄Ⅲに当てはまる適切な表現を、十五字以内で書きなさい。

【資料】

「人生はビスケットの缶だと思えばいいのよ」

僕は何度か頭を振つてから緑の顔を見た。

「たぶん僕の頭がわるいせいだと思うけれど、ときどき君が何を言つているのかよく理解できないことがある」

「ビスケットの缶にいろんなビスケットがつまつてて、好きなのとあまり好きじやないのがあるでしょ？ それで先に好きなのどんどん食べちやうと、あとあまり好きじやないのばっかり残るわよね。私、辛いことがあるといつもそう思うのよ。今これをやつとくとあとになつて楽になるつて。人生はビスケットの缶なんだって」「まあひとつ哲学ではあるな」

「でもそれ本当よ。私、経験的にそれを学んだもの」と緑は言った。

（村上春樹「ノルウェイの森（下）」による。）

【ノートの一部】

○それぞれの隠喻から読み取れること

(I)	(II)	読み取れること
人生	雪の結晶 花や宝石	雪とは、うつくしく、すばらしい放射状のものであるということ。
旅	人生とは、（ III ）ものであるということ。	人生とは、不意に転機が訪れたり、困難に直面したり、奮起したりしながら送っていくものであるということ。

三 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

注1

は、国^{かみ}の守^{もと}にして、²是^{これ}を断らしむ。

どちらが正しいか判断してもらうことになった。

近比^{ちかさへ}、帰朝^{かきしる}の僧の説^{とて}、ある人語りしは、唐^{もうこし}に賤^{いや}しき夫婦有り。
近^{ちか}ごろ、唐から帰朝した僧の話として

身分の低い夫婦がいた。

餅^{もち}を売りて世を渡りけり。夫の道の辺^{ほどう}にて餅^{もち}を売りけるに、人の袋を

暮らしを立てていた。夫が道端で餅^{もち}を売っていた時に、

誰かが袋を

落としたりけるを見ければ、銀の軟挺^{なんてい}六つ有りけり。家に持ちて帰りぬ。
落としたのを見つけた中に、

妻、心¹すなほに欲なき者にて、「我等^{われら}は商^{あきな}うて過ぐれば、事も欠けず。
欲のない者で、商^{あきな}いをして暮しているので不足なこともありません。

この主^{ぬし}、いかばかり歎き求むらん。いとほしき事なり。主^{たゞ}を尋ねて返^{なげ}し^との銀の持ち主は、どんなに嘆いて搜^{さが}しているでしよう。気の毒なことです。捜^{さが}して返^{なげ}し給^{たま}へ」と云ひければ、「誠に」とて、普く触れけるに、主と云ふ者

してあげて下さい」と言うので、
出て、是を得て、あまりに嬉しくて、「三つをば奉^{たまつ}らん」と云ひて、
この銀を受け取り、

既に分かつべかりける時、思ひ返して、煩ひを出さんが為に、
面倒を引き起こそうとして、

「七つこそ有りしに、六つあるこそ不思議なれ。一つは隠されたるにや」

と云ふ。「さる事なし。本より六つこそ有りしか」と論ずる程に、果て
そのようなことはない。

注2　注3　注4　注5　注6　注7　注8　注9　注10　注11　注12　注13　注14　注15　注16　注17　注18　注19　注20　注21　注22　注23　注24　注25　注26　注27　注28　注29　注30　注31　注32　注33　注34　注35　注36　注37　注38　注39　注40　注41　注42　注43　注44　注45　注46　注47　注48　注49　注50　注51　注52　注53　注54　注55　注56　注57　注58　注59　注60　注61　注62　注63　注64　注65　注66　注67　注68　注69　注70　注71　注72　注73　注74　注75　注76　注77　注78　注79　注80　注81　注82　注83　注84　注85　注86　注87　注88　注89　注90　注91　注92　注93　注94　注95　注96　注97　注98　注99　注100　注101　注102　注103　注104　注105　注106　注107　注108　注109　注110　注111　注112　注113　注114　注115　注116　注117　注118　注119　注120　注121　注122　注123　注124　注125　注126　注127　注128　注129　注130　注131　注132　注133　注134　注135　注136　注137　注138　注139　注140　注141　注142　注143　注144　注145　注146　注147　注148　注149　注150　注151　注152　注153　注154　注155　注156　注157　注158　注159　注160　注161　注162　注163　注164　注165　注166　注167　注168　注169　注170　注171　注172　注173　注174　注175　注176　注177　注178　注179　注180　注181　注182　注183　注184　注185　注186　注187　注188　注189　注190　注191　注192　注193　注194　注195　注196　注197　注198　注199　注200　注201　注202　注203　注204　注205　注206　注207　注208　注209　注210　注211　注212　注213　注214　注215　注216　注217　注218　注219　注220　注221　注222　注223　注224　注225　注226　注227　注228　注229　注230　注231　注232　注233　注234　注235　注236　注237　注238　注239　注240　注241　注242　注243　注244　注245　注246　注247　注248　注249　注250　注251　注252　注253　注254　注255　注256　注257　注258　注259　注260　注261　注262　注263　注264　注265　注266　注267　注268　注269　注270　注271　注272　注273　注274　注275　注276　注277　注278　注279　注280　注281　注282　注283　注284　注285　注286　注287　注288　注289　注290　注291　注292　注293　注294　注295　注296　注297　注298　注299　注300　注301　注302　注303　注304　注305　注306　注307　注308　注309　注310　注311　注312　注313　注314　注315　注316　注317　注318　注319　注320　注321　注322　注323　注324　注325　注326　注327　注328　注329　注330　注331　注332　注333　注334　注335　注336　注337　注338　注339　注340　注341　注342　注343　注344　注345　注346　注347　注348　注349　注350　注351　注352　注353　注354　注355　注356　注357　注358　注359　注360　注361　注362　注363　注364　注365　注366　注367　注368　注369　注370　注371　注372　注373　注374　注375　注376　注377　注378　注379　注380　注381　注382　注383　注384　注385　注386　注387　注388　注389　注390　注391　注392　注393　注394　注395　注396　注397　注398　注399　注400　注401　注402　注403　注404　注405　注406　注407　注408　注409　注410　注411　注412　注413　注414　注415　注416　注417　注418　注419　注420　注421　注422　注423　注424　注425　注426　注427　注428　注429　注430　注431　注432　注433　注434　注435　注436　注437　注438　注439　注440　注441　注442　注443　注444　注445　注446　注447　注448　注449　注450　注451　注452　注453　注454　注455　注456　注457　注458　注459　注460　注461　注462　注463　注464　注465　注466　注467　注468　注469　注470　注471　注472　注473　注474　注475　注476　注477　注478　注479　注480　注481　注482　注483　注484　注485　注486　注487　注488　注489　注490　注491　注492　注493　注494　注495　注496　注497　注498　注499　注500　注501　注502　注503　注504　注505　注506　注507　注508　注509　注510　注511　注512　注513　注514　注515　注516　注517　注518　注519　注520　注521　注522　注523　注524　注525　注526　注527　注528　注529　注530　注531　注532　注533　注534　注535　注536　注537　注538　注539　注540　注541　注542　注543　注544　注545　注546　注547　注548　注549　注550　注551　注552　注553　注554　注555　注556　注557　注558　注559　注560　注561　注562　注563　注564　注565　注566　注567　注568　注569　注570　注571　注572　注573　注574　注575　注576　注577　注578　注579　注580　注581　注582　注583　注584　注585　注586　注587　注588　注589　注590　注591　注592　注593　注594　注595　注596　注597　注598　注599　注600　注601　注602　注603　注604　注605　注606　注607　注608　注609　注610　注611　注612　注613　注614　注615　注616　注617　注618　注619　注620　注621　注622　注623　注624　注625　注626　注627　注628　注629　注630　注631　注632　注633　注634　注635　注636　注637　注638　注639　注640　注641　注642　注643　注644　注645　注646　注647　注648　注649　注650　注651　注652　注653　注654　注655　注656　注657　注658　注659　注660　注661　注662　注663　注664　注665　注666　注667　注668　注669　注670　注671　注672　注673　注674　注675　注676　注677　注678　注679　注680　注681　注682　注683　注684　注685　注686　注687　注688　注689　注690　注691　注692　注693　注694　注695　注696　注697　注698　注699　注700　注701　注702　注703　注704　注705　注706　注707　注708　注709　注710　注711　注712　注713　注714　注715　注716　注717　注718　注719　注720　注721　注722　注723　注724　注725　注726　注727　注728　注729　注730　注731　注732　注733　注734　注735　注736　注737　注738　注739　注740　注741　注742　注743　注744　注745　注746　注747　注748　注749　注750　注751　注752　注753　注754　注755　注756　注757　注758　注759　注760　注761　注762　注763　注764　注765　注766　注767　注768　注769　注770　注771　注772　注773　注774　注775　注776　注777　注778　注779　注780　注781　注782　注783　注784　注785　注786　注787　注788　注789　注789　注790　注791　注792　注793　注794　注795　注796　注797　注798　注799　注800　注801　注802　注803　注804　注805　注806　注807　注808　注809　注8010　注8011　注8012　注8013　注8014　注8015　注8016　注8017　注8018　注8019　注8020　注8021　注8022　注8023　注8024　注8025　注8026　注8027　注8028　注8029　注8030　注8031　注8032　注8033　注8034　注8035　注8036　注8037　注8038　注8039　注8040　注8041　注8042　注8043　注8044　注8045　注8046　注8047　注8048　注8049　注8050　注8051　注8052　注8053　注8054　注8055　注8056　注8057　注8058　注8059　注8060　注8061　注8062　注8063　注8064　注8065　注8066　注8067　注8068　注8069　注8070　注8071　注8072　注8073　注8074　注8075　注8076　注8077　注8078　注8079　注8080　注8081　注8082　注8083　注8084　注8085　注8086　注8087　注8088　注8089　注8089　注8090　注8091　注8092　注8093　注8094　注8095　注8096　注8097　注8098　注8099　注80100　注80101　注80102　注80103　注80104　注80105　注80106　注80107　注80108　注80109　注80110　注80111　注80112　注80113　注80114　注80115　注80116　注80117　注80118　注80119　注80120　注80121　注80122　注80123　注80124　注80125　注80126　注80127　注80128　注80129　注80130　注80131　注80132　注80133　注80134　注80135　注80136　注80137　注80138　注80139　注80140　注80141　注80142　注80143　注80144　注80145　注80146　注80147　注80148　注80149　注80150　注80151　注80152　注80153　注80154　注80155　注80156　注80157　注80158　注80159　注80160　注80161　注80162　注80163　注80164　注80165　注80166　注80167　注80168　注80169　注80170　注80171　注80172　注80173　注80174　注80175　注80176　注80177　注80178　注80179　注80180　注80181　注80182　注80183　注80184　注80185　注80186　注80187　注80188　注80189　注80189　注80190　注80191　注80192　注80193　注80194　注80195　注80196　注80197　注80198　注80199　注80200　注80201　注80202　注80203　注80204　注80205　注80206　注80207　注80208　注80209　注80210　注80211　注80212　注80213　注80214　注80215　注80216　注80217　注80218　注80219　注80220　注80221　注80222　注80223　注80224　注80225　注80226　注80227　注80228　注80229　注80230　注80231　注80232　注80233　注80234　注80235　注80236　注80237　注80238　注80239　注80240　注80241　注80242　注80243　注80244　注80245　注80246　注80247　注80248　注80249　注80250　注80251　注80252　注80253　注80254　注80255　注80256　注80257　注80258　注80259　注80260　注80261　注80262　注80263　注80264　注80265　注80266　注80267　注80268　注80269　注80270　注80271　注80272　注80273　注80274　注80275　注80276　注80277　注80278　注80279　注80280　注80281　注80282　注80283　注80284　注80285　注80286　注80287　注80288　注80289　注80289　注80290　注80291　注80292　注80293　注80294　注80295　注80296　注80297　注80298　注80299　注80300　注80301　注80302　注80303　注80304　注80305　注80306　注80307　注80308　注80309　注80310　注80311　注80312　注80313　注80314　注80315　注80316　注80317　注80318　注80319　注80320　注80321　注80322　注80323　注80324　注80325　注80326　注80327　注80328　注80329　注80330　注80331　注80332　注80333　注80334　注80335　注80336　注80337　注80338　注80339　注80340　注80341　注80342　注80343　注80344　注80345　注80346　注80347　注80348　注80349　注80350　注80351　注80352　注80353　注80354　注80355　注80356　注80357　注80358　注80359　注80360　注80361　注80362　注80363　注80364　注80365　注80366　注80367　注80368　注80369　注80370　注80371　注80372　注80373　注80374　注80375　注80376　注80377　注80378　注80379　注80380　注80381　注80382　注80383　注80384　注80385　注80386　注80387　注80388　注80389　注80389　注80390　注80391　注80392　注80393　注80394　注80395　注80396　注80397　注80398　注80399　注80400　注80401　注80402　注80403　注80404　注80405　注80406　注80407　注80408　注80409　注80410　注80411　注80412　注80413　注80414　注80415　注80416　注80417　注80418　注80419　注80420　注80421　注80422　注80423　注80424　注80425　注80426　注80427　注80428　注80429　注80430　注80431　注80432　注80433　注80434　注80435　注80436　注80437　注80438　注80439　注80440　注80441　注80442　注80443　注80444　注80445　注80446　注80447　注80448　注80449　注80450　注80451　注80452　注80453　注80454　注80455　注80456　注80457　注80458　注80459　注80460　注80461　注80462　注80463　注80464　注80465　注80466　注80467　注80468　注80469　注80470　注80471　注80472　注80473　注80474　注80475　注80476　注80477　注80478　注80479　注80480　注80481　注80482　注80483　注80484　注80485　注80486　注80487　注80488　注80489　注80489　注80490　注80491　注80492　注80493　注80494　注80495　注80496　注80497　注80498　注80499　注80500　注80501　注80502　注80503　注80504　注80505　注80506　注80507　注80508　注80509　注80510　注80511　注80512　注80513　注80514　注80515　注80516　注80517　注80518　注80519　注80520　注80521　注80522　注80523　注80524　注80525　注80526　注80527　注80528　注80529　注80530　注80531　注80532　注80533　注80534　注80535　注80536　注80537　注80538　注80539　注80540　注80541　注80542　注80543　注80544　注80545　注80546　注80547　注80548　注80549　注80550　注80551　注80552　注80553　注80554　注80555　注80556　注80557　注80558　注80559　注80560　注80561　注80562　注80563　注80564　注80565　注80566　注80567　注80568　注80569　注80570　注80571　注80572　注80573　注80574　注80575　注80576　注80577　注80578　注80579　注80580　注80581　注80582　注80583　注80584　注80585　注80586　注80587　注80588　注80589　注80589　注80590　注80591　注80592　注80593　注80594　注80595　注80596　注80597　注80598　注80599　注80600　注80601　注80602　注80603　注80604　注80605　注80606　注80607　注80608　注80609　注80610　注80611　注80612　注80613　注80614　注80615　注80616　注80617　注80618　注80619　注80620　注80621　注80622　注80623　注80624　注80625　注80626　注80627　注80628　注80629　注80630　注80631　注80632　注80633　注80634　注80635　注80636　注80637　注80638　注80639　注80640　注80641　注80642　注80643　注80644　注80645　注80646　注80647　注80648　注80649　注80650　注80651　注80652　注80653　注80654　注80655　注80656　注80657　注80658　注80659　注80660　注80661　注80662　注80663　注80664　注80665　注80666　注80667　注80668　注80669　注80670　注80671　注80672　注80673　注80674　注80675　注80676　注80677　注80678　注80679　注80680　注80681　注80682　注80683　注80684　注80685　注80686　注80687　注80688　注80689　注80689　注80690　注80691　注80692　注80693　注80694　注80695　注80696　注80697　注80698　注80699　注80700　注80701　注80702　注80703　注80704　注80705　注80706　注80707　注80708　注80709　注80710　注80711　注80712　注80713　注80714　注80715　注80716　注80717　注80718　注80719　注80720　注80721　注80722　注80723　注80724　注80725　注80726　注80727　注80728　注80729　注80730　注80731　注80732　注80733　注80734　注80735　注80736　注80737　注80738　注80739　注80740　注80741　注80742　注80743　注80744　注80745　注80746　注80747　注80748　注80749　注80750　注80751　注80752　注80753　注80754　注80755　注80756　注80757　注80758　注80759　注80760　注80761　注80762　注80763　注80764　注80765　注80766　注80767　注80768　注80769　注80770　注80771　注80772　注80773　注80774　注80775　注80776　注80777　注80778　注80779　注80780　注80781　注80782　注80783　注80784　注80785　注80786　注80787　注80788　注80789　注80789　注80790　注80791　注80792　注80793　注80794　注80795　注80796　注80797　注80798　注80799　注80800　注80801　注80802　注80803　注80804　注80805　注80806　注80807　注80808　注80809　注80810　注80811　注80812　注80813　注80814　注80815　注80816　注80817　注80818　注80819　注80820　注80821　注80822　注80823　注80824　注80825　注80826　注80827　注80828　注80829　注80830　注80831　注80832　注80833　注80834　注80835　注80836　注80837　注80838　注80839　注80840　注80841　注80842　注80843　注80844　注80845　注80846　注80847　注80848　注80849　注80850　注80851　注80852　注80853　注80854　注80855　注80856　注80857　注80858　注80859　注80860　注80861　注80862　注80863　注80864　注80865　注80866　注80867　注80868　注80869　注80870　注80871　注80872　注80873　注80874　注80875　注80

すなほに を、現代仮名遣いで書きなさい。

1

2 是を断らしむについて、どういう意見の食い違いを判断しても
らうことにしてたのかを説明した次の文の（I）・（II）に当て
はまる適切な表現を、文章中からそれぞれ八字以内で抜き出して書き
なさい。

「主」は（I）と言うが、「夫」はもとから（II）と言
うので銀の軟挺の数が合わないということ。

3 文章中の a ～ c に当てはまる最も適切な語を、次のア～エの中から

選び、その記号を書きなさい。ただし、同じ記号を二回選んではいけ
ません。

ア 国の守 イ 夫 ウ 妻 エ 主

4 六つながら夫妻に給はりけり とあるが、その理由について話し
合った生徒の会話を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

【生徒の会話】

田中.. 「六つながら夫妻に給はりけり」ってどういうことかな?
新井.. 調べると、「給はる」は「与える」や「もらう」という意味
だから、この場合は国の守が夫妻に与えたということだろう
ね。

問い合わせ 会話文中の空欄III～Vに当てはまる適切な表現を、それぞれ十二
字以内で書きなさい。

森山.. そうか、主と夫妻の意見の食い違いを確認した上で、國の
守が、銀を拾った夫妻に六つ全て与えたということだね。

田中.. 國の守は判決の前に「かの主、不実の事」が確かだと思つ
てゐるよね。それなのに判決では「共に正直の者と見えたり」、
つまり、（ ） III ）と言つてゐるよね。どうして
かな。

新井.. そこがこの話のポイントだろうね。証言が食い違つて
のに、誰も嘘はついていないとすることで、嘘をついた者を
こらしめる…。

田中.. そういうことか。どちらの証言も正しいならば六つの銀は、
() IV) ことになる。

森山.. だから、「別の七つの銀を搜しなさい。六つの銀は落とし
主がわからないから拾った夫婦の物になる。」ということにな
るんだね。

新井.. もしも落とし主が六つの銀を返してもらおうと思つたら、
() V) しかないとすることになるね。

森山.. そうだね。結局、正直が一番大切だとことを作者は言
いたいのかもしれないね。